

地域医療連携課からの 新年の挨拶

新年あけましておめでとうございます。昨年は大変お世話になり、ありがとうございます。

今年も今まで以上に先生方、患者さんのご要望にお答えできますよう、課員一同取り組んでまいり所存です。

今年もどうぞ宜しくお願いいたします。



新任副部長紹介



消化器科副部長
まつなが しんすけ
松永 心祐

卒業年次／平成12年
資格／日本内科学会認定医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医

新任スタッフ紹介



地域医療連携課
すぎた ゆみ
杉田 有美

地域の先生方に信頼されることを第一目標として取り組んで参ります。先生方のお役にたてるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。

行事予定のご案内

地域医療連携交流会

日時／平成26年3月7日(金) 19:15～

会場／ユアーズホテルフクイ

詳細については後日ご案内予定です。

開催報告

地域医療連携交流会

昨年11月22日(金)、サバエ・シティーホテルにおいて「地域医療連携交流会」を開催いたしました。池端病院 池端幸彦先生、橘医院 橘良哉先生に座長をお務めいただき、消化器科の西山先生による「小腸内視鏡手術」、神経内科の高野部長による「脳梗塞予防」についてそれぞれ話題提供させていただきました。院内外の59名の先生方にご参加いただき、盛會に會を終了することができました。

今後も先生方が満足のごく話題提供ができるよう、努力してまいります。ご参加いただいた先生、ありがとうございました。



在宅サービス調整者と病棟看護管理者との情報交換会

毎年開催している当研修会では、病院と地域との円滑な連携を目指し、病棟看護師と在宅サービス調整者(ケアマネジャー、訪問看護師)で意見交換を行っています。

今回は、事例をもとにし、患者さんが自宅退院するために、それぞれの職種に期待すること、自分たちができることを検討しました。普段はカンファレンス等でしか会う機会がない在宅スタッフと、直接意見を交わすことで、他職種連携の必要性、各々の視点や役割を再認識することができました。

「普段話せない本音の部分伝え合うことができた」「自分たち病院の役割を改めて考えさせられた」との声が聞かれ、活発な意見交換を行うことができたと思います。

今後も『顔の見える連携 から 心の通う連携』を目標に日々精進して参りたいと思います。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



地域医療連携課

受付時間／平日 8:00～18:30

土曜 8:30～12:30

TEL 0776-36-4110(直通)

FAX 0776-36-0240(専用)

福井赤十字病院

<http://www.fukui-med.jrc.or.jp>

e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp

連携通信第49号発行
平成26年1月
福井赤十字病院



Partner

Japanese Red Cross Fukui Hospital

福井赤十字病院連携通信

パートナー vol.049

平成26年1月発行



午年にちなんだ
ボランティアさんの作品

Topics トピックス

新年のご挨拶

新年をお慶び申し上げます。

政権が交代して景気が回復傾向になり、今年もその流れが続くと予想されますが、医療は4月からの診療報酬改定、医療法の改正により一般病床の細分化、病床機能に応じた医療提供体制の変革が図られ、医療の再編が進行すると思われます。また、TPP参入、消費税増税の影響が心配される年となります。

当院は3ヵ年中期計画の2年目を迎え、救急医療や高度専門医療を軸に高診療密度病院を目指して努力を続け、地域ニーズに応えたいと考えています。具体的には、医療連携の深化、病院の再整備を図ります。

本館建設から10年が過ぎ、病院が狭くなりました。再整備計画では、がん診療に焦点を当て、高度のがん診療を行う新館を建設します。併せて、腎臓泌尿器透析センター、腎移植医療室を新館に移します。完成は平成27年になりますが、工事期間中、紹介患者や先生方に騒音などでご迷惑をおかけします、温かいご理解とご支援をお願い致します。また、医療連携の深化のため、県医師会と協働して「ふくい医療情報連携システム」に、情報提供病院として積極的に参加してまいります。

最後に、先生方のご健勝とご多幸を祈念し、新年のご挨拶と致します。



院長 野口正人

福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

基本方針

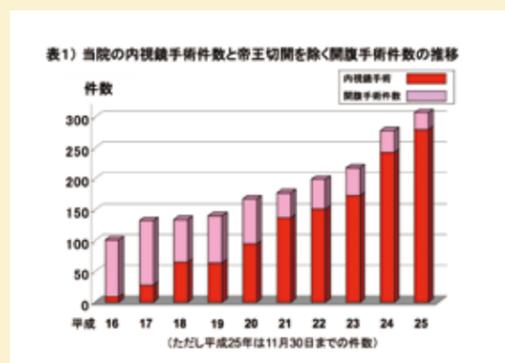
- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

産婦人科／ 腹腔鏡手術のトピックス



産婦人科部長
辻 隆博

当院産婦人科では、内視鏡手術(腹腔鏡手術と子宮鏡手術)に力を入れており、昨年は麻酔科の協力もあって243件(今年は11月30日までで270件)もの内視鏡手術を施行いたしました(表1)。



他院では当然開腹手術となるような巨大な子宮筋腫の症例、癒着の激しい既往手術後の症例、凍結骨盤を呈する重症子宮内膜症の症例なども良性疾患であれば、当院ではそのほとんどを腹腔鏡手術で行っております。腹腔鏡手術の利点は傷が小さいというだけではなく、通常では覗けない深部の手術操作が可能でその拡大視効果により繊細な手術が可能で点です。今回は当科での最近の腹腔鏡手術のトピックスをふたつご紹介いたします。

ひとつは子宮体がん根治術の高度先進医療申請に向けての臨床試験を福井県内で初めて開始いたしました。第1例目の手術は、去る8月9日に行われ、術中出血量もごく少量で合併症もなく、開腹手術と遜色のない根治性の高い手術を施行することができました。入院期間の短縮、早期の社会復帰ができ、患者さん・ご家族には大変喜んでいただきました。リンパ節郭清などの繊細な手術手技には腹腔鏡手術の特性がより生かされます。

もうひとつは骨盤臓器脱の最も効果の高い治療とされる腹腔鏡下仙骨腔固定術を県内で初めて開始いたしました。骨盤臓器脱は出産や加齢により骨盤内にある骨盤底筋群が弛緩し、子宮や膀胱、直腸などの骨盤内臓器が腔より体外に出てきてしまう疾患です。65歳以上の女性の約25%に骨盤臓器脱や腹圧性尿失禁などの骨盤底筋のトラブルが生じると言われております。骨盤臓器脱の治療はいろいろな治療法がありますが、腔断端と仙骨をメッシュで固定する仙骨腔固定術(図1)はAmelineらにより1953年に開腹手術として報告された術式で欧米における骨盤臓器脱の治療法のゴールドスタンダードでした。それが1994年にNezahtらにより、腹腔鏡手術として紹介され、開腹手術と成績に差がなかったことから、より低侵襲な術式として欧米では腹腔鏡下仙骨腔固定術が普及しつつあります。こちらの手術は当院で8月より腎臓・泌尿器科と協力して開始しましたが、侵襲や合併症がほとんどなく、生理的な再建方法であるため、患者さんから大変好評です。



当院ではこれからも先進的な内視鏡手術を取り入れ、地域の患者さまに貢献出来るように精進して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

周術期口腔機能管理への 取り組み



歯科・歯科口腔外科部長
山田 和人

昨年度より歯科においてがんなどの術前、術後、化学療法・放射線療法中の口腔内の状態を管理することにより周術期口腔機能管理料を算定できるようになりました。

以前より口腔内の清掃状態を適切に管理することで、化学療法中や放射線療法中の口腔粘膜炎を抑えること、術前の口腔内の清掃管理を行うことで術後の肺炎リスクを減らせることはわかっておりましたが、十分な歯科的管理が行えず、治療を中止せざるを得なくなる症例も多々ありました。また、がん治療中といったリスクがある患者さんの一般歯科治療していただける先が少なく、満足な歯科治療を受けられない場合も多々ありました。このようながん治療中の患者さんにおける歯科口腔領域の問題点を解決すべく創られた制度です。

ただ歯科治療においてもそれぞれ専門分野があります。すべての歯科診療所で、一律に、がん治療中といったリスクがある患者さんを診ていただくのは難しいことだと思います。さらに、医科と歯科の先生方の認識の隔たりが大きい場合もあり、せっかく創られた制度がうまく機能しないことも考えられます。このような事態を避けるために、福井県歯科医師会では本年10月に福井県がん診療連携協議会と協定を結び、周術期口腔機能管理を行っていただける歯科診療所をつくり、講習会を受講していただいたうえで、歯科医師会でリストを作成し、がんを治療している病院からの要請に応えるシステムを発足させました。このようなシステムは全国でも4番目ということで、福井県は周術期口腔機能管理において先進的県としてスタートしました。

当院においては、医科で入院し、がん治療される患

者さんは歯科・歯科口腔外科でスクリーニングします。その中で口腔管理が必要と考えられる患者さんは一括して当科で、入院中の口腔管理を行っています。退院後、外来通院になる段階で、歯科診療所リストから患者さんの希望する診療所を選び、診療所の先生方のご承諾を得た上で、退院時の全身状態や歯科治療の上で注意すべき点をお知らせし、患者さんを紹介いたしております。診療所に通院後、必要時にはいつでも当科に紹介していただくようにしています。

最近では、がん以外でもビスホスホネート製剤、抗凝固剤、特定生物製剤など、口腔内に大きなトラブルを引き起こす危険性のある薬が増えてきております。少し注意を払えば大きなトラブルにもならず、患者さんにも大きな福音をもたらす薬です。お互いに不幸な関係になる前に当科のような病院歯科にご紹介いただければ、お互いがwin-winになる関係を築いていければと考えます。医科的な治療中に口腔内のトラブルがございましたらご紹介いただけましたら幸いです。

